

患者さまへのお知らせ

①アンケートへのご協力をお願いします

スギモト歯科医院では「より満足していただける医院」を目指すために、引き続きアンケートを実施します。ご協力いただきました患者さまには、歯ブラシ1本を進呈させていただきます。お手数おかけしますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



②お手紙をお待ちしています！

院内新聞『FUNCTION』では通院されている患者様から、杉元医師へのご質問やご意見、治療の体験談など、歯に関するお手紙を募集しています。

新聞に掲載させていただいた方には、杉元医師からスギモト歯科医院オリジナルラベル、一品堂の皇室献上酒の芋焼酎「白さつま芋」か「安納芋」のいずれか1本を進呈します(20歳以上)。*在庫状況により品が変わることがあります。



▲「白さつま芋」(左)と「安納芋」

応募方法

お手紙やおハガキに、氏名・年齢・性別・電話番号・ご住所を明記の上、医院のポストに直接投函いただくか、必要分の切手を貼ってご郵送ください。書式や文章量は自由です。匿名希望の場合は「匿名希望」とご明記ください。

※個人情報保護法に則り、患者さまからご提供いただいた情報はこちらで責任を持って管理させていただきます。ご掲載させていただく際、内容は変えませんが、一部文章を変更させていただく場合があります。ご了承ください。また、お送りいただいたお手紙やおハガキはお返しできませんので、ご注意くださいませ。

③新しい先生のご紹介です！

—杉元先生の研究内容に感銘を受けてスギモト歯科医院へ来られたそうですが、どのような点だったんですか？

歯科の研究論文って曖昧なものが多いんです。特に「咬合」は抽象度が高く分かりづらい。でも、杉元先生の論文は治療自体がそうであるように、わかりやすく具体化されているんです。

—中尾先生は、なぜ咬合にご興味をお持ちに？

大学病院にいるときに咬合の治療が必要な患者さんがいらしたのですが、大学では削る・埋めるというレベルのことしか教わらないので大変だったんです。そのときに、咬合あつての口腔状態であるということをしみじみ感じたんです。

—それで、実際に杉元先生と働かれてみられてどうですか？

やっぱりすごいですよ。周囲のスタッフとの連携とか、詰め物や被せなどに対する厳しい姿勢などは、まず大学病院とかでは見られませんでしたしね。あと、歯科医師って、経営面のことばかり考えてラクをしようとする人がほとんどなのに、杉元先生の場合は仕事と割り切っておられないでしょ。だから、休み時間でも治療のこととか教えてくださるんですよ。

—中尾先生の今後のビジョンについて教えてください。

削っては埋めるという現在の日本の歯科治療のレベルは本当にひどいと思っているので、杉元先生を師としながら一緒に業界を盛り上げられるような存在になりたいと思っています。



中尾幸介氏

1984年生まれ。滋賀県出身。徳島大学歯学部を卒業後、同大学の研修医として1年勤務。その後2年は個人の歯科医院で勤務。かねてから「咬合」に興味があったことから、杉元氏のもとへ、10月1日からスギモト歯科医院での勤務を始める。

医療法人 幸加会

スギモト歯科医院

電話 0120-76-3718(フリーダイヤル)
0774-64-2424

FAX 0774-64-2266

診療時間 月～金 10:00～13:00 / 14:00～20:00
土 10:00～13:00 / 14:00～18:00

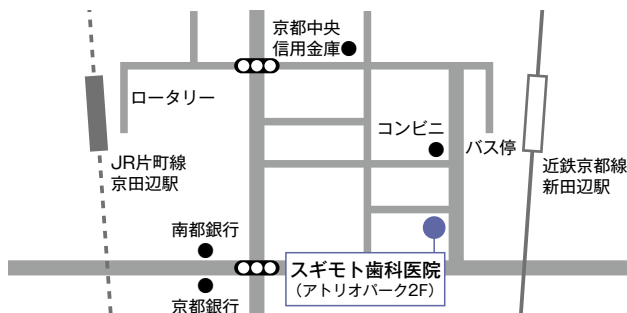
休診 日曜・祝祭日

施設 完全個室、オペ室、駐輪場、駐車場

〒610-0331 京都府京田辺市田辺中央1-2-11
アトリオパーク2F

ホームページ <http://sugimoto-dc.jp/>

「新田辺」駅前、「京田辺」から徒歩約5分



交通

京都 ▶ 「京都」から近鉄京都線急行・近鉄奈良行で「新田辺」まで約20分
奈良 ▶ 「近鉄奈良」から近鉄奈良線急行・国際会館行で「新田辺」まで約20分
大阪 ▶ 「京橋」からJR片町線快速・木津行で「京田辺」まで約40分
東京 ▶ 「東京」からJR新幹線のぞみで京都駅を経由し「新田辺」まで約3時間

CONTENTS

- 患者さまへ・Message
- 杉元のごめんください・Visit
- お知らせ・News



—仕事・家庭・地域…—

続・認められたくないですか？

Message

患者さまへ

こんにちは。杉元です。既にご存知の方もいらつしやるかと思いますが、改めて患者さまに当院の体制変更のお知らせさせていただきますと思います。まず、約9年間に診療を行ってきた松野先生が11月(予定)に大阪の交野市で「松野クリニック」を開業されることになりました。

患者さまもご承知の通り、松野先生は、治療技術もさることながら、人を安心させることができるとても優秀な歯科医です。私がここまでさまざまなかをを進めてこられたのも、松野先生のおかげだといっても過言ではありません。私としてはさみしい思いと今後に期待する思いが半々ですが、近年の歯科経営は経済的にもかなり厳しく、新しい医院が軌道に乗り、成功するよう支援するつもりです。

また、10月1日からは中尾幸介先生が当院で共に診療を行ってくれています。大学の後輩でもある中尾先生は、フレッシュながら経験豊富な先生です。なぜ当院へ来てくれたのか、どのようなモチベーションで診療を行いたいと思っているかなど、詳しいプロフィールは4ページ目に掲載していますのでぜひご覧いただきたいと思えます。松野先生を送り出し、中尾先生を迎え、また新たな航海が始まります。患者さまには、今後も温かい目で見守っていただけると幸いです。

では、前号に続いて同志社大学の太田先生との対談をお楽しみください。

杉元敬弘

杉元のごめんください

次号に続き、同志社大学で「承認欲求」について研究をされている太田肇氏との対談。今回は社会・組織などの人的な承認欲求について、杉元氏から質問が飛び出す！

出世を目指すことに
価値を見出さない若者

太田 最近、会社なんかで若い社員はゲーム感覚、大学のサークルのりで働かせよくがんばるといわれています。職場から一歩離れると勉強をしない。日々、承認を得て、喜びを得ているけれども長期的な視点がない。だから、10年、20年後に幸せになつていくかわからないですね。

杉元 それはなぜなのでしょうかねえ。

太田 教育の問題などもあると思いますが、昔のように立身出世みたいなことは言われなくなつてますし、楽しさだとか面白さというようなものを求めるのが当たり前になつたんだと思うんです。空気が読めるとか、キャラだとかいうことで人気者になれますし、出世だとかそういうものを目指して黙々と努力しているような人はむしろ煙たがられますしね。それで短期思考へと傾いてきているのかなとは感じています。

杉元 それは出世に価値がなくなつたということでしょうか。

太田 いえ。出世そのものには価値があると思うのですが、それを目指すことに価値がなくなつていくんだと思います。出世を

目指してわきめもふらずに努力しているのは格好が悪いというようなことです。

杉元 格好が悪いからやらないということですか。でも認められたいという気持ちも強いでしょうし、気に留められたいという気持ちもあるでしょう。

太田 普段のキャラもがんばりも認められたい。でも、今すぐに認めてもらいたいということでしょうか。

杉元 それは企業にとつては致命的ではな

いでしょか。

太田 そうですねえ。個人の野望や野心といったものが欠けていると思つています。

杉元 時代の流れとして仕方のないことなのか、教育的な問題かどちらでしょう？

太田 私は後者だと思えます。教育だけに限ったことではなく、社会全体ですね。お互いに牽制しあつてモグラ叩きをし合つていふようなことをやるべきですね。

杉元 先生はそれを研究されていて具体的に

頑張ることが格好悪いという中で 「ヒーローになれ」はいい言葉ですね。



にどうすればいいとお考えですか？

太田 まずは承認の多元化ですね。それから、成果重視ということですね。

杉元 数字で出るような仕事なら明確に成果が出ますが、出ない場合は不公平になりませんか？ あと年齢によって体力が違うといったこともあるでしょう？

太田 いろいろな人の意見を聞いて客観的評価をしなければならぬでしょうし、貢献度と評価は必ずしも一致しなくてもいいと思うんです。日本は高齢者を敬う文化もありますからね。

杉元 たとえば給与に関しても右肩上がりになつてほしいということですか？

太田 そう思います。あと、評価は細かく分けなくてもいいと思うんです。「できていない」「普通になってきている」「よくできていく」の3段階ぐらい。全部が真ん中にくることがあつてもいいし、上下に分かれてもいい。

杉元 興味深いお話ですね。

太田 たとえば歯医者さんにも企業にも受付の方がいらつしやるでしょ。受付が綺麗な方だと足を運びたくなるという方がいらつしやつたと思えば、それも評価にすればいい。その評価は報酬に結びつかなくてもいいんです。ただ、それを中でするとなると、やつかみとかが出てくるでしょ。

杉元 そうでしょうかねえ。

太田 だからね、目の中ではなく外に向けてたほうがいいと思うんです。中を見ると序列ができる。外を見るとできにくい。夫婦でも「夫婦円満」ということを意識しはじめた途端、問題が出てきたりするでしょ。

杉元 確かにそうかもしれません。

太田 私はゼミの生徒には人を妬むこと、足を引く張ることはやめようと言っています。それから「スターになりなさい」と言っています。今、そういうことはなかなか言われませんか。

杉元 スター？ それは頑張るということとはまた違うことですか？

太田 いえ。同じです。頑張ることが格好悪いというような価値観を持ち合うことで足を引く張り合うならば、強いモチベーションを持ってほしいと思います。

杉元 スターって久々に聞いた言葉ですが、人によって描くものが違うでしょうし、輝く場所も輝き方も違うという意味ではない言葉ですよ。

太田 会社員でもせっかく生まれてきたのだから主役にならないと面白くないじゃないかということですか。

——バントのスターもいますしね。

太田 そういうことです。それが私のいう多元化の承認です。

人に認められたから人を認められる

杉元 こうやってお話をうかがっていて気づいたんですが、僕、やっぱり要素所所の人に認めてもらえてきたんやなあと感じます。引き上げてもらうこともありましたし。

太田 そうですね。認めるというのは報酬や言葉だけではなくいろいろな形がありますからね。引き上げるというのも承認のひとつの形でしょね。

杉元 あと、認めてきてもらえたから、年



Profile

太田 肇氏

同志社大学 政策学部 教授。1954年、兵庫県生まれ。公務員を経験した後、三重大学、滋賀大学を経て現職へ。専門は組織論。個人を生かす組織・社会について研究。

本当はえらくなりたいと思ってるのに、全員で足の引く張り合いをしていますから。

年齢やキャリアなどに関係なく議論し合える勉強会などができているんだと思うんです。

太田 認められてきたということに気づかないままふんぞり返っている中高年などは多いですからね。自分が認められてきたと気づくことは大切なことだと思います。

杉元 そうですね。自分が認められることがなければ人の意見を受け入れるような余裕もなかったかもしれませんね。なにか自分が変わってきているという自覚はあっ

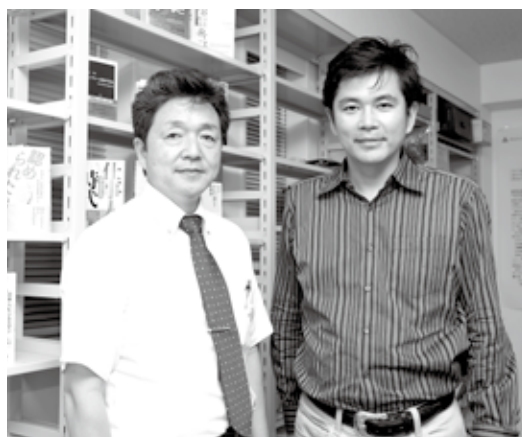
たんですが、もしかしたらそういうことが関係しているのかもしれない。

——ブログでも、最近「先生が本人のことではなく「先生がされます」というような内容のものが増えてきていますよね。

杉元 無意識ですが、それもなにか関係しているのかもしれない。

太田 認められると認めなくなるということもありますし、認めていることを認めてもらいたいということもありますしね。

杉元 今ね、ひとつまとまりました。自分が好きなことをやること、振舞うことを人に認められたいということに気づいたんです。そう考えると、開業したときぐらいからそんなに自分が変わっていないんですよ。あとは家族が能力を評価してくれたらいいんですけどね(笑)



「社員が「よく辞める」会社は成長する！」

今の若者は、自分らしいキャリアを積むのが当たり前だと考えている。ある仕事で能力を高めたら、転職・独立してさらなる成功を目指す。そんな彼らを入社後3年で一人前に育て、10年で「巣立たせる」。その間の働きで上司も成果を手に入れる。キャリアアップ志向の強い若手を活用する、マネジメント術を紹介。



- 発行元／PHPビジネス新書
- 発行／2012年7月
- 価格／882円(税込)